



金田千鶴女史の歌集

島田忠夫

私の最も感銘を深くしてゐたのは、非常に素直な頭である。而して現実に深く掘り下げた點の、之までに到達してゐるものは稀であると思つてゐる。病弱な朝夕を繰り返す、それは自ら感ず、人の胸を打つて、現在の多くの女流歌集なんかより、かへつて高く評價すべきであると思つてゐる。次に抄録する歌によつて、短命の女流歌人金田千鶴のほんの一部なりとも知つて頂きたい。

大正十三年(二十三歳)
おとろへしこの身なるかな今日も又物食はぬと父は叱り給ふも
みづみづと背くのび行く櫻若葉ひたすらに吾も生くべかりける
大正十五年
心にくるしみ思ふことあればこの朝は血を喰ふにけり
聲を上げて吾も泣きながらうししのこのさふしさのうすらぐものか
昭和二年
夜深きに出の鳴く音は身に泌みて生きたる願ひにたに湧きも
うしみの病もへばなれ家にひとりひそけに住むべかりける

我が悩み

関泉

〇勤けごなべて収入は義父なれど我は金なくあへきくらしつ
〇夜寒終へしし机に向ふ間も義父に氣兼ねをしつゝありける
〇我が生れし家に父母なく大兄の八人の子供持ちて憐める
〇我が生れし家の貧しさ義父我をのしる材料と常になるらし
〇此の家の子となりてより笑ふて事忘れ幾年か経し

東郊即興

珠雲 小野野亭

夕日さす惠那のいたたきよく見えてはは知られず澄める西空
昭和三年
白妙に雪つむ高嶺寂けくもたふときものによりて生きたる
折につけ胸いたき鳴きくものかふるさとにし吾が住みかねつ
うしし身はなげきしげもうちからのなげきの中を過し行くなり生くる日のなげきのこをばかみて思ふ心はやうやくよかし
昭和四年
四方の山は黒く立つさびしさよこに生れ終る命か
おとつれも絶えて久しき人のうへをうしは吾が母の死なご強き

黄金魔刀

高桑義生作 樋口悦也書

田沼は悪魔です。稲荷山の家を焼いてお染様を奪つたのです。お染様はいつか自分から逃げたのではない。あなたを目的にして、何より大切なもの——つまりお染様を奪つたのです。あれから大阪を立退いて江戸にむかふた彼等、今にお染様をたねに使用して、ひと仕事しようとするに相違ない。さうであらう。つまり悪魔の彼等が欲しいのであら。お染様をたねにつかつて、いけなさい。そんなうまい話から金を強請るのだから、男はやつてしまふので、うまい話の彼等は何をしよといふのだ。世の中の、お染様のやうな貧乏人どもをおだて、騒動を起すのが仕事なのか。箕部氏……」

我が悩み

関泉

〇勤けごなべて収入は義父なれど我は金なくあへきくらしつ
〇夜寒終へしし机に向ふ間も義父に氣兼ねをしつゝありける
〇我が生れし家に父母なく大兄の八人の子供持ちて憐める
〇我が生れし家の貧しさ義父我をのしる材料と常になるらし
〇此の家の子となりてより笑ふて事忘れ幾年か経し

平和

関泉

よるこがもかなしみも大空に飛ぶ雲かげの如く人間に

啞の妃

中西無二

昔或る片田舎に、おちい育てゐました。お玉はだ『私は天女です。今佛様の使で来ました。どうぞお玉を立すか』と祈願をいさんもお玉を立すか



「田沼は悪魔です。稲荷山の家を焼いてお染様を奪つたのです。お染様はいつか自分から逃げたのではない。あなたを目的にして、何より大切なもの——つまりお染様を奪つたのです。あれから大阪を立退いて江戸にむかふた彼等、今にお染様をたねに使用して、ひと仕事しようとするに相違ない。さうであらう。つまり悪魔の彼等が欲しいのであら。お染様をたねにつかつて、いけなさい。そんなうまい話から金を強請るのだから、男はやつてしまふので、うまい話の彼等は何をしよといふのだ。世の中の、お染様のやうな貧乏人どもをおだて、騒動を起すのが仕事なのか。箕部氏……」

「田沼は悪魔です。稲荷山の家を焼いてお染様を奪つたのです。お染様はいつか自分から逃げたのではない。あなたを目的にして、何より大切なもの——つまりお染様を奪つたのです。あれから大阪を立退いて江戸にむかふた彼等、今にお染様をたねに使用して、ひと仕事しようとするに相違ない。さうであらう。つまり悪魔の彼等が欲しいのであら。お染様をたねにつかつて、いけなさい。そんなうまい話から金を強請るのだから、男はやつてしまふので、うまい話の彼等は何をしよといふのだ。世の中の、お染様のやうな貧乏人どもをおだて、騒動を起すのが仕事なのか。箕部氏……」

「田沼は悪魔です。稲荷山の家を焼いてお染様を奪つたのです。お染様はいつか自分から逃げたのではない。あなたを目的にして、何より大切なもの——つまりお染様を奪つたのです。あれから大阪を立退いて江戸にむかふた彼等、今にお染様をたねに使用して、ひと仕事しようとするに相違ない。さうであらう。つまり悪魔の彼等が欲しいのであら。お染様をたねにつかつて、いけなさい。そんなうまい話から金を強請るのだから、男はやつてしまふので、うまい話の彼等は何をしよといふのだ。世の中の、お染様のやうな貧乏人どもをおだて、騒動を起すのが仕事なのか。箕部氏……」

お醤油は……ヤマフル
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社
味噌醤油 山崎合名会社

良品廉賣に勝る商略なし
山城セメント特約代理店
和洋銅物 釜屋商店
釜屋商店
釜屋商店
釜屋商店
釜屋商店
釜屋商店
釜屋商店
釜屋商店
釜屋商店

耳鼻咽喉科専門
山内醫院
山内醫院
山内醫院
山内醫院
山内醫院
山内醫院
山内醫院
山内醫院
山内醫院

中野齒科醫院
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次
院長 日本齒科 中野憲次

干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ
干やなぎ

天下一品散
天下一品散
天下一品散
天下一品散
天下一品散
天下一品散
天下一品散
天下一品散
天下一品散
天下一品散

西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖
百藥品 西村屋藥舖

開内藥局
開内藥局
開内藥局
開内藥局
開内藥局
開内藥局
開内藥局
開内藥局
開内藥局
開内藥局

春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ
春のサロソ

平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社
平製氷會社

穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店
穴屋商店

三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店
三井ハキモノ店

